

## 如水館高 総合優勝

### 第24回中国四国選手権大会 兼日本選手権大会中国四国地区予選

全国8地区で行われた地区予選の最終戦となる第24回中国四国チアリーディング選手権大会が7月14日(日)、1800人の観客・大会関係者が見守る中、ジップアリーナ岡山で開催された。岡山・広島・山口・島根・愛媛の中国四国5県より69チームがエントリー、同大会過去最高の860人が出場した。

自由演技・総合優勝は如水館高(広島)、規定演技・総合第一位は岡山学芸館高、チアダンス演技・総合優勝はシニアの部 IPU・環太平洋大ダンス部(岡山)がそれぞれ輝いた。

自由演技では、如水館高がスピード感あふれる演技で会場を沸かせた。個人技術の高さに、男子選手によるダイナミックさが加わり、全体の難易度・完成度ともに素晴らしい演技を披露した。総合優勝が新設された第15回大会(2015年開催)から、如水館高は今回7度目の王座獲得。コロナ禍で縮小開催された2大会を除き、第19回大会のみ環太平洋大(岡山)にその座を譲るが、今年も圧倒的な実力で中国四国一を制した。



規定演技では、岡山学芸館高が初の総合第一位の快挙を果たした。強豪チームが上位を占める中、観客が引き込まれる安定したリズムで、表情や発声等チアリーディングの基本テクニックを忠実にまとめ、体全体を大きくのびやかに使い、堂々とした演技を見せた。フォーメーションやスペーシングといった練習量が必要な要素も丁寧に仕上げ、選手全員が規定演技に求められる要素を理解し臨んだことがうかがえる演技だった。



チアダンス演技では IPU・環太平洋大・ダンス部が息の合った演技で観客を魅了。全身の細かい部分まで意識を行き届かせたキレのある動きや、ストーリー性のある演技構成に多くの観客が引き込まれた。



過去最高の出場人数となった今大会。全国的な傾向と同じく、男子選手の活躍が目立つ大会となった。数年前からジュニア世代の増加が見られていたが、その選手たちが成長し、中学・高校部門で続々と活躍を始めている。

競技に出場した男子選手は昨年の12人から22人と大幅に増加。チアダンス演技でも男子選手の活躍が目立った。

また、今回エキシビション ヤングスターに初出場した平均年齢73歳の「ドリレボチアリーディングチーム」の生き生きとした演技には、会場から熱い視線が向けられた。

華やかで力強いチアリーディングの魅力はさらに洗練され、観客を魅了し、会場が一体となる高揚感はより一層増している。性別や年齢にかかわらず多様な選手が輝く時代の到来を告げる2024年大会となった。

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.